表彰式

2023年10月21日、立命館大学創思館カンファレンスルームにて表彰式を開催しました。入賞者には、表彰状と、各協賛企業様から副賞（最優秀賞：防災グッズ・地球儀・今治タオル、ぬいぐるみ他、優秀賞：防災グッズ・プログラミングキット・商品券他、入選：住宅用火災警報器、防災ポーチ、アレクサ他、佳作：地図帳、瞬足他）および参加賞（文具セットや飲料水他）が贈呈されました。続いて、審査委員から作品紹介と講評を行い、入賞者からは作品のテーマや工夫した点など発表いただきました。表彰式は、入賞者、ご家族、協賛企業様、本学関係者が参加し、和やかな雰囲気の中で終えることができました。

賞状授与

副賞授与

集合写真

応募者の声

- 作成することで、被災した時のシミュレーションにもなり、子供にも分かりやすく、また伝わりやすいので、どういのちを守るかを考えるキッカケ作りになる。
- 子供を伴い、調査することで、「この道は車が多い」、「この標識の意味は？」等の道路状況や交通ルールを学ぶ機会になった。
- 子どもが現地撮影をしながら、普段どこで何をしているのか自然と教えてくれたのでいつもなら聞き出せない事が聞けて良かった。考えているより街が老朽化していると感じた。
- いつもは明るい時間しか歩かない道を夜歩いてみる事で、大きな通りは明るかったり川沿いは足元を照らす街灯が使われていたり、場所によって色んな種類の街灯が使われている事を知る事ができた。
- 自分の住み処、というものをあらためて2人で確認し、子がこの土地を、家を、地域を大切に思ってくれていることがわかりうれしかったです。まず自分の立っているところを大切にし、どこでも生きていくことのできる子になってほしいです。

出張授業

「どうやって安全安心マップを作成したらいいの？」という声にお応えするために、歴史都市防災研究所では出張授業を実施しています。2023年度は瀬戸内海の小豆島にある土庄町立土庄小学校（香川県）との連携のもと、2023年5月20日（土）に土庄小学校（香川県土庄町）の役重校長先生ほか3名の先生方、および小豆島で幅広い地域連携活動を行っているせとうち観光専門職短期大学の谷崎友紀講師、石床渉准教授とともに、土庄小学校の近隣エリアにおける「安全安心マップ＆防災教材作成のための防災まち歩き」を実施しました。今回の防災まち歩きは、小学生に身近な地域の魅力と災害の危険箇所／安全箇所とを関連付けて考えてもらうための素材を収集することを目的に教員のみで実施されました。当日は、行政が発行しているハザードマップ、新旧の地形図、土地分類図を見ながら、土地の起伏と浸水予測との関係や水路・排水溝の状態、土地利用の変化などのほか、代表的な地域の文化遺産である国指定特別天然記念物「宝生院のシンパク」を現地で確認し、小学生向けの安全安心マップ＆防災教材作成について意見交換しました。

宝生院のご住職から特別天然記念物
「宝生院のシンパク」のお話をお伺いしました

伝法川支流にある
暗渠を確認しました

土庄小学校の近くを流れる
伝法川の様子を確認しました

お気軽にご相談・お問い合わせください。

安全安心マップ
かんたんマニュアル
もあります！

立命館大学　歴史都市防災研究所　事務局
〒603-8341　京都市北区小松原北町58番地
TEL：075-467-8801 ／ FAX：075-467-8825
E-mailアドレス：rekibou@st.ritsumei.ac.jp
コンテスト特集ページ：https://r-dmuch.jp/project/mapcontest/
開館日／月～金　9時30分～17時00分［土・日・祝および休館日除く］

立命館大学　歴史都市防災研究所では、小学生を対象として地域の安全安心への関心を深めてもらうことを目的に、2007年から「地域の安全安心マップコンテスト」を毎年開催しています。この事業は、小学生、保護者、ご家族、地域住民、教員など子供と大人が一緒に地域を調べ、マップを作成しながら地域の安全安心を考えてもらえるよう、大学の社会貢献活動の一環として取り組んでおります。今年も多くの方々に支えられて17回目を迎えることができました。この場を借りて心より御礼申し上げます。なお、本紙において第17回の事業内容をご報告させていただきます。皆様の日頃のご活動や今後のマップ作りの一助となれば幸いです。

第17回「みんなでつくる地域の安全安心マップコンテスト」概要

2023年8月21日から9月27日までの募集期間に、全国から33点（個人29点、グループ4点）の応募があり、総勢41名の小学生に参加いただきました。応募地域は、京都府をはじめ、北海道、宮城県、福島県、群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、静岡県、愛知県、広島県と全国各地に及びました。魅力的な作品が多く、審査にはかなりの時間を要しましたが、11名の審査委員による厳正なる審査の結果、最優秀賞1点、優秀賞1点、入選3点、佳作5点の入賞作品10点を選出いたしました。今年も、入賞作品のうち7作品を全国児童生徒地図作品展連絡協議会（事務局：国土交通省国土地理院）主催の「第27回全国児童生徒地図優秀作品展」へ推薦し、その結果、本コンテストで優秀賞に輝いた「子どもも大人も視覚障害がある方も安心して過ごせる町へ」が、「奨励賞」を受賞しました。また、「抜け出せ事故の多い町 ルールを守って安心・安全マップ～自転車編～」で入選した児童（4年生・広島県広島市）へのインタビューが作品写真と共に中国新聞へ掲載されました。

主　催：立命館大学歴史都市防災研究所
協　賛：セコム株式会社、Fレンタカー株式会社、株式会社パスコ、NPO法人災害ボランティアステーション日本、株式会社帝国書院、株式会社ネスト・ジャパン、マツモラ産業株式会社、株式会社宝水、株式会社柴橋商会、能美防災株式会社、奥尻島観光協会、株式会社サンオート、ワエストロ株式会社、やまと産業株式会社、アキレス株式会社、株式会社コバック、株式会社宮田運輸、ヤマハ発動機株式会社、京都トヨタ自動車株式会社、株式会社アイシン、西日本旅客鉄道株式会社（順不同）
後　援：国土交通省国土地理院、京都新聞、KBS京都、京都市、公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター、一般社団法人人文地理学会、立命館地理学会 、京都府警察、一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構、国土交通省近畿地方整備局（順不同）

最優秀賞　3年生・広島県広島市

己斐の山と八幡川と共に生きる ～安心安全MAP～

応募者のコメント

広島市は6つの川と多くの山に囲まれています。私の住む己斐は、高い山をけずり団地をたくさん作った町です。2年前の豪雨では家の近くで土砂災害がありました。そこで、役所や学校にインタビューをして避難場所の良い点•気になる点を比べました。また、大雨でも八幡川がなぜ氾濫しないのかが、トンネル放水路のおかげだと知り驚きました。災害後に避難場所も増え、安心安全の大切さや地球温暖化を考えるきっかけを学べました。

講評

川との関連を自分の地域にとどまらず、広域的にも捉えて災害の安全性を纏めようとしたマップです。ダムや放水路の水に関連した情報や、校長先生や園長先生へのヒアリングなどのフィールドワークに加え、降水量の調査や広島県全域の川の流れなどの文献調査を組み合わせて、丁寧に情報収取を行っています。自身の気づきも加え、多くの情報量を見やすく構成した模範的な力作です。

優秀賞　5年生・広島県広島市

子どもも大人も視覚障害がある方も安心して過ごせる町へ

応募者のコメント

僕が住む地域では多くの人が生活していて、白杖を使っている方もよく見かけます。街には点字ブロックや音響式信号機などの工夫がありますが、実際に目隠しで街を歩くと不安になることが多かったです。視覚障害の方が本当に過ごしやすい街にするため、まずは視覚障害について知ることが必要だと感じました。この地図を一人でも多くの人に見てもらい、どんな人でも過ごしやすい優しい街を実現するきっかけになったら嬉しいです。

講評

タイトルにも示されている通り、視覚障害についての丁寧な調査に基づいたものになっています。目隠しし、傘を白杖代わりに使用して点字ブロック上を歩行した調査を実施している点はとてもユニークです。実施調査に基づいて、視覚障碍者の困難な点を提言されている点も良いです。マップの情報もこの視点で整理して記載されているとさらに良かったように思います。

全国児童生徒地図作品展連絡協議会（事務局：国土地理院）主催
「第27回全国児童生徒地図優秀作品展」にて、「奨励賞」を受賞しました。

入選　4年生・広島県広島市

抜け出せ事故の多い町 ルールを守って安心・安全マップ～自転車編～

応募者のコメント

この地図は最初、自転車のルールをまとめようと考えたものでした。でも、警察署で話を伺い、私の住む地域に自転車事故多発ワースト1の交差点がある事や、事故を無くすために活動をされている方の存在を知りました。この地域には学校が多く、自転車や歩行者で多くの人が行き交う事が、事故発生の原因の一つであり、この地図を見て私も含め多くの人が安全に気をつける事ができる様に願い、地図と教えて頂いた情報を結びつけました。

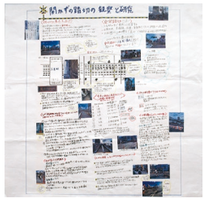
講評

自転車での登下校をきっかけに、自転車利用者の視点で纏めています。警察や地元の人へのヒアリング、通学ラッシュの起きる交差点に注目した調査やサルの看板の情報など、多様な視点も良いです。丁寧で見やすいマップも評価できますが、道路標識に加えて自身の着眼に大切な情報を記載するとさらに良かったように思います。

中国新聞へ掲載されました。

入選　5年生・広島県広島市

開かずの踏切の観察と研究



応募者のコメント

私が利用する道に大きな踏切があります。左右からひっきりなしに電車が通り、いつも遮断機がおりています。遮断機が上がると、車、自転車、人が一斉に渡ろうとします。私も自転車とぶつかりそうになったこともありますし、お年寄りが渡り切れずに困っている様子をよく見ます。そこで、もっと安全な踏切にするにはどうしたらいいのだろうと思いマップを作ることにしました。少しずつ危険をなくすような改善がされたらと思います。

講評

タイトル通り、地元の「開かずの踏切」に対しての問いから、調査、問題発見、提案までのストーリー展開が明快です。目的に合わせた独自視点の利用者に対する観察調査や遮断機の開閉時間の計測など、丁寧な調査もよいです。マップコンテストなので、調査結果や問題点、提案などをテキスト中心ではなく、図を用いてレイアウトに工夫し、マップとしての纏めになると良かったように思います。

入選　1年生・愛知県名古屋市

消防車出動！　この道、とおれる？

応募者のコメント

私の家の近くは、狭い道が多いです。火事のときに消防車が来られるのか調べるため、道の幅を測ったり、消防署の人に教えてもらったりして、地図にしました。すると、車がすれ違えない場所や、見通しが悪い場所があることが分かりました。消防署の人も、通れない場所や障害物を調べて地図にするなど、早く到着するために様々な努力をしているということです。消防署の人たちへの感謝をいつも忘れないようにしたいです。

講評

消防車が通れるかどうかの視点で、自宅に至るまでの周辺の道路幅とルートを調査したマップです。消防車に関連して、送水口や放水口、消防用空地、消火栓消防署でのヒアリングなど、精緻な調査がよいです。1年生の行動範囲という点で今回は自宅廻りの調査にとどまったのかもしれません。緊急車両の視点で広域に調査されるとさらに有用であったように思います。

佳作　4・2年生・東京都杉並区

歩道に横断旗をおこう

応募者のコメント

ぼくたちがよく使う鎌倉街道は、道がせまいのに、車通りが多く、歩道をわたる時、なかなか車が止まってくれない。だから、横断旗を置きたいと思った。区役所の人が、「多くの人が、あぶないと考えて、団体で申請すると横断旗を置くことができるよ。」と、教えてくれた。どれだけの車がぼくたちに気がついていないか、どんな所が危ないか、調べて、マップを作ることにした。このマップが、横断旗を置くきっかけになってほしい。

講評

車が止まってくれない、狭く交通量の多い地元の道に対する自身の問題意識から、横断旗の設置について知り、横断旗に気づくかどうかの調査まで行っています。この目的、結果、感想という構成は、とても秀逸です。横断旗に気づくかどうかの数日間に渡る調査結果も興味深いですが、調査結果は周辺状況と関係があると考えられるので、地図に調査ポイントの周辺情報を記載するとさらに良かったように思います。

佳作　4年生・北海道名寄市

防災サイレンきこえ方マップ

応募者のコメント

私の住んでいる名寄市は正午に防災サイレンが鳴ります。防災サイレンが遠くまで聞こえているのかを確かめるために色々な場所で音の大きさを測りました。計測の時は車や風の音が入らないように注意しました。サイレンは1日1回にしか鳴らないので、30か所以上を計測するのに4ヶ月以上かかりました。計測してわかったことは、サイレンから離れるにつれて音は小さくなるけどちゃんと聞こえ、寒い日は音が聞こえやすい事です。

講評

防災サイレンの聞こえ方について距離に着目して実測し、発生源を中心にした同心円の図にプロットした結果は、独自色の強い、目を引くとても効果的な図でよいです。この結果を地図情報と重ね、周辺状況と合わせて捉えることができるようにすると良かったのではないかと思います。「わかった事」も興味深く、これをきっかけに要因を探求するとさらに充実した内容になりそうです。

佳作　4年生・広島県広島市

もしも、体が不自由になったときでも安心・安全マップ

応募者のコメント

ぼくは、学校の授業でパラリンピックについて学習し、「ボッチャ」や「ゴールボール」を体験したことがきっかけで、体の不自由な人の生活について考えるようになりました。普段、歩いている時に目にする点字ブロックを追って近くの商業施設まで歩き、サービスカウンターの方へインタビューすると、安心してお店を利用できる工夫が分かりました。点字ブロックが途切れてしまっているところもあり、修理されると良いなと思いました。

講評

もしも・・・という視点から、誰でも起こりうるという発想で、大型施設の様々な障害者に対する対策について調査している点がユニークです。施設ごとに整理している点、纏めがある点も良いです。中央に配置されたマップが調査対象の施設位置を示すだけにとどまっていますが、施設内に限らず、道路など施設までのアクセスについても調査し、それらを地図に記載するとさらに良かったように思います。

佳作　6年生・群馬県高崎市

高崎防災マップ　～災害から命を守るためには～

応募者のコメント

台風で近くに流れる利根川が危険水域に達し避難した時は冷静になる事すら難しかったです。普段からの防災対策や冷静に行動する事の大切さを想像しながら、マップを作成しました。ペットとの同行避難、体の不自由な方やお年寄りの避難経路などもっと広く目を向けなくてはいけないことに気付きました。マップ作りで得た知識を活かし、災害時には地域の方と声を掛け合い助け合えたらなと思いました。

講評

ヒョウ被害や豪雨に伴う避難体験などの体験に基づいて、自分の身の守り方を調べて制作したマップです。避難時のペットとの同行や避難場所、災害拠点病院、土砂災害危険区域など、様々な視点で調べた情報が豊富でよいです。文字量や豊富な情報の配置に工夫し、これらの情報に関連する位置が地図上で一目で分かるようにするとさらに良かったように思います。